

魔法の言葉 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：廣瀬 優佳里 所属：佐賀大学教育学部附属特別支援学校 記録日：2018年2月3日
 キーワード：「はたらく生活」、学習・生活・余暇支援、実態把握、気持ちのコントロール、思いの表現

【対象生徒の情報】

○学年 高等部3年（18歳）

○障害名 知的障害 レノックス・ガストー症候群¹⁾

○障害と困難の内容

- ・小学校1～2年生程度の国語や数学の学習を行っている。ひらがな・カタカナで簡単な文の読み書きができる。
- ・記憶力がよく、経験したこと、知っている言葉を使って友だちや教師等と会話を楽しむことができる。
- ・疲れている様子が見られるときに、てんかん発作が起きることがある。（10年近くてんかん発作がなかったが、昨年度2回あった。）

1)レノックス・ガストー症候群

てんかん症候群のひとつで、多くは何らかの脳の器質障害を有する。幼児期から小児期に発症し、てんかんの発作型が複数に及び発作の発生頻度も高い。対象生徒の場合、睡眠中に起こることが多い。一般的なてんかん同様、規則正しい生活を守ること、決められた薬をきちんと飲むこと、睡眠不足に気を付けること等が必要。

【活動目的】

○当初のねらい

くらす（家庭生活）

- ①起床時刻、就寝時刻を守って規則正しい生活をする。
- ②自分ができる家事を担当し、毎日行う。

まなぶ・はたらく（学校・職業生活）

- ③イライラしたときの適切な解決方法を学ぶ。

たのしむ（余暇生活）

- ④余暇を拡充する。

↑当初のねらいに

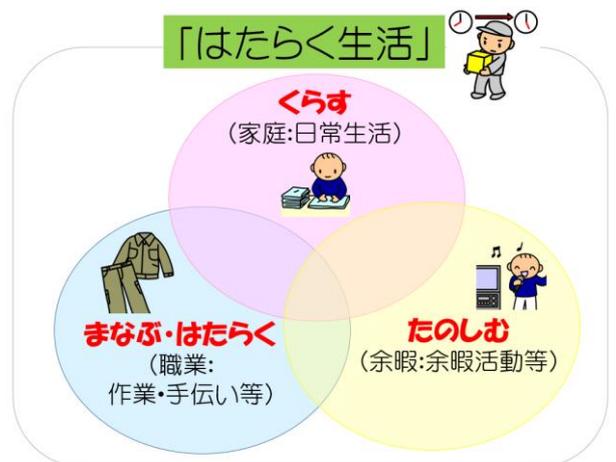
くらす・まなぶ・はたらく・たのしむ

- ⑤自分の思いを伝えコミュニケーションの幅を広げる。
を追加した。

○実施期間 平成29年4月～平成30年2月（継続中）

○実施者 廣瀬 優佳里

○実施者と対象生徒の関係 担任



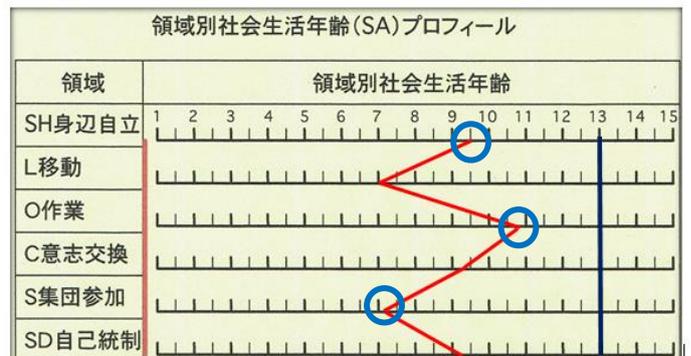
将来の「はたらく生活」の実現に向けて、くらす・まなぶ・はたらく・たのしむ、それぞれの力をICT機器の活用をしながら育む指導・支援を行っていく。

【活動内容と対象生徒の変化】

○対象生徒の事前の状況 4月～6月までの見取り

- ・S-M 社会生活能力検査 2017.3.11 実施
SH 9-7・・・自分のことは自分でしょうという意識が強く、身の処理には自分で取り組もうとする。
- 10-9・・・手先は器用な方である。見て理解をして作業に取り組むことができる。
- S 7-1・・・集団での活動への参加が苦手。
- ・平成30年4月より就労支援B型事業所に就労予定。
- ・将来的にはグループホームでの生活を希望している（20歳代のうちに）。
- ・Windows タブレットを家庭で購入したがゲームや動画の視聴中心。また、夜にやめることができず、就寝時

領域別社会生活年齢(SA)プロフィール



間が遅くなることがある。早寝早起きが苦手。

- ・イライラすると自傷行為や暴言等不適切な言動が見られる。
- ・イライラした際に、別室等で休憩をすることができずに、教室で友だちと過ごそうとすることが多い。
- ・余暇として自分から楽しめる活動が少ない。近くの図書館で本を借りて読書（絵本や漫画本中心）や、タブレットでゲームや動画視聴、プールでのウォーキング、テレビを見て過ごす等。
- ・好きなことや得意なこと（読書、ゲーム、絵を描くこと、工作等）には積極的に取り組む。
- ・毎日取り組んでいる家事は、洗濯後のタオルたたみ。

○活動の具体的内容

	ねらい	活動の具体的内容	使用したアプリ等
〈実践1〉	①実態把握	実践前に、より実態把握を深める必要性があり、毎日生徒と一緒に活動できる朝の会と帰りの会に、生徒の様子やその他イライラの要因と考えられる気温や湿度、天気、睡眠等に関する情報を記録。生徒がイライラしている際には、不適切な言動の内容や頻度を教師が「DropTalk」のログ機能を使って記録。	 <p>Drop Talk [図1]の画面をタップすると、いつ、どの言動が起きたか記録できる。</p>  <p>[図1 Drop Talk 記録画面]</p>
〈実践2〉	くらす（家庭生活） ①起床時刻、就寝時刻を守って規則正しい生活をする。	カレンダーアプリ「Palu」を使って起床時刻や就寝時刻を毎日確認し、睡眠時間の確保を意識できるようになることを目指した。	 <p>Palu</p> <p>操作が簡単。スタンプや手書きで記録ができる。カレンダーを3つまで作ることができ、カレンダーに写真も入れることができる。</p>
〈実践3〉	まなぶ・はたらく（学校・職業生活） ③イライラしたときの適切な解決方法を学ぶ。	イライラした時だけでなく普段から自分の気持ちに気づき、必要なときには休憩をしたり、活動への参加の仕方を自分で決めたりすることができるように「きもちメーター」を使用した。初めは1日1回調子のよいときに使用し、徐々に2回、3回と回数を増やした。	 <p>きもちメーター</p> <p>気持ちを表す色が赤、オレンジ、緑、水色、青の5色あり、今の気持ちに合う色を選ぶことができる。色の意味付けは自由に決めて利用することができ、選んだ気持ちは、日にちや時間とともにグラフに記録され、気持ちの移り変わりを見ることもできる。</p>
〈実践4〉	くらす（家庭生活） ②自分ができる家事を担当し、毎日行う。	「まねるんです。」で動画を使った手順書を作成し、調理等に学校で取り組んだ。学校で使用した手順書を家庭に持ち帰り、学校で事前に取り組んだ家事に家庭でも取り組んだ。	 <p>まねるんです。</p> <p>写真アプリで作業等の手順をビデオで撮影し、その手順ごとのビデオにタイトルをつけ再生できるモデリング用のアプリ。動画なのでモデリングが簡単。</p>

<p>〈実践5〉</p>	<p>たのしむ(余暇生活) ④余暇を拡充する。</p>	<p>休み時間等を使い、学校で余暇につながる活動に取り組み、楽しむことができそうな活動には、家庭でも取り組めるようにした。教師が余暇として楽しめるような活動を紹介し、余暇が広がっていくような働きかけをした。</p>	<p> 好きな音楽を鑑賞できる。カラオケの練習もできる。 You Tube</p> <p> 漢字や熟語の読み方を、手書きで検索することができる。読みとともにも意味も表示され、調べたい言葉を簡単に調べることができる。</p>
<p>〈実践6〉</p>	<p>くらす(家庭生活) まなぶ・はたらく(学校・職業生活) たのしむ(余暇生活) ⑤自分の思いを伝えコミュニケーションの幅を広げる。</p>	<p>「くらす・まなぶ・はたらく・たのしむ」の全てにつながる取組として、生徒と「LINE」を使ったやりとりを行った。「LINE」でのやりとりを通して、自分の思いを伝える方法も学習した。</p>	<p> テキストやスタンプを使って簡単にメールのやりとりができる。写真や動画のやりとりもできる。</p>

〇対象生徒の事後の変化

〈実践1〉

実態把握 6月～

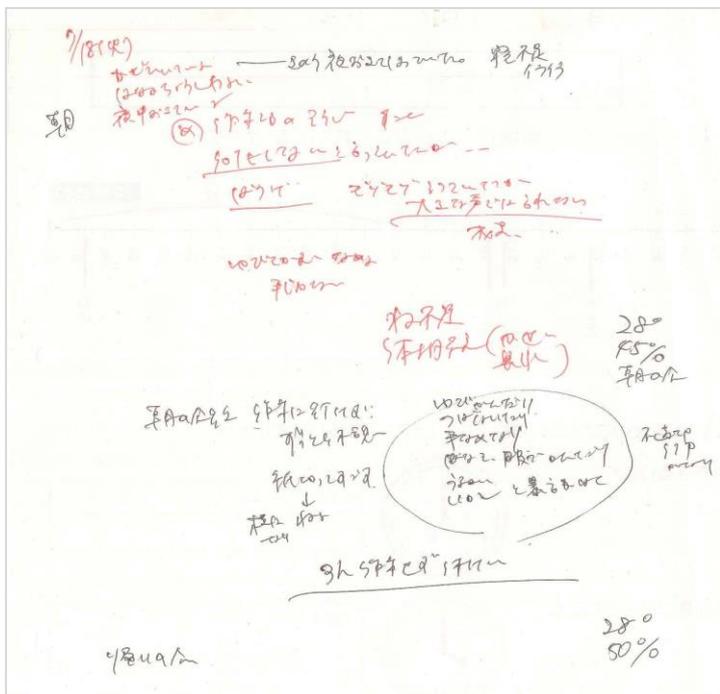
6月までの事前の実態把握後、実践をスタートしようとしたものの、イライラした様子が続き実践をスタートすることが難しかった。そこで、まずイライラの要因や適切なイライラの解決方法をさらに探るため、生徒の様子を記録しながら6月以降も実態把握を行った。

記録場面

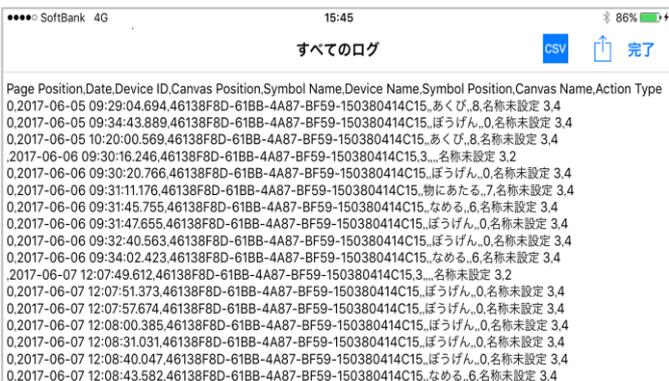
- 朝の会と帰りの会（毎日必ず生徒と一緒に活動できる時間。）

記録方法

- 生徒の様子やその他気づきを記録（[図2]）。イライラの要因と考えられる気温や湿度、天気、睡眠等に関する情報も一緒に記録。
- 生徒がイライラをしている際には、不適切な言動の内容や頻度も教師が「DropTalk」のログ機能を使って記録（[図3]）。



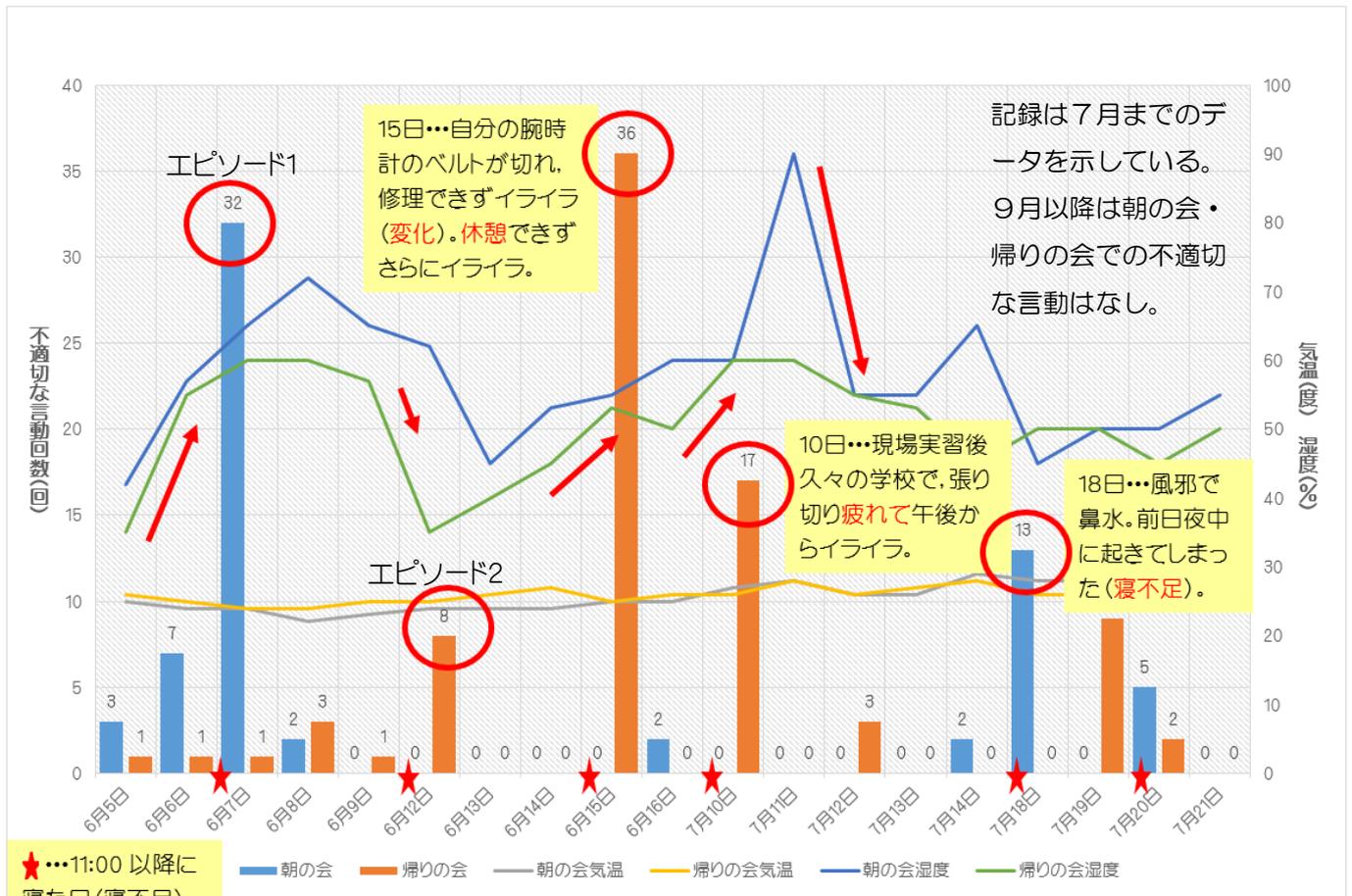
〔図2 生徒の様子記録用紙〕



〔図3 「Drop Talk」のログ機能を使った記録〕

←「Drop Talk」の画面をタップすると、いつ、どの行動が起きたのか記録が残る。

毎日の生徒の様子記録と「DropTalk」のログ機能を使った記録をあわせグラフに示した [図4]は、6月からの生徒の朝の会と帰りの会での様子を表にしたものである。青は朝の会での不適切な言動の発生回数、赤は帰りの会での回数。線グラフは気温と湿度の記録を示している。



[図4 朝の会や帰りの会での生徒の様子記録]

[エピソード1]

6/7は宿泊学習明けの朝の会。前日は、将来の家庭生活に向け自分の身の回りのことや家事等にとっても積極的に取り組んでいた。しかし、朝の会の前から急にイライラした様子が見られはじめ、朝の会中暴言や物に当たったり、手をなめたりする言動が続いた。帰宅後、「今年はきつかった。去年は楽しかった。」と生徒がつぶやいていたとのこと（保護者の方より）。数か月後の将来の生活に向け、自分のことは自分であることを目標に何事にも一生懸命取り組み、生徒にとっては少し頑張りすぎて疲れてしまったようである。また、この頃急に暑くなってきたことも少し要因として考えられる。⇒イライラの要因は「疲れ」「暑さ」だろう。

[エピソード2]

6/12。いつもよりかなり早く登校。朝から調子よく、朝の会もイライラなし。午後の総合的な学習の時間は地域の方と協力をして、近所の公民館の庭に花を植える活動を行った。活動中は地域の方と話をしながら、花苗を植えたり水やりをしたりしてよく頑張っていたが、徐々に調子を崩し始める。屋外での活動での暑さ、さらに学校に戻ってすぐ更衣室で着替えをしようとした際、更衣室が暑くイライラ。その後の帰りの会で暴言をはき、あくびをする姿が見られた。⇒要因は「暑さ」と、かなり早く登校し朝から頑張っていたこと、屋外での作業による「疲れ」だろう。

エピソード1・2以外の記録も同様にまとめてみると、イライラの要因として右に示す5つが考えられた。

「暑さ」「疲れ」「睡眠不足」「にぎやかな集団での活動」「スケジュールの変更や新しい活動への見通しがもてない不安」

これらの要因を解決していくために、実態把握を引き続き進めながら以下に示す実践を進めた。

<実践2>くらす（家庭生活）

①起床時刻、就寝時刻を守って規則正しい生活をするための取組

(1) カレンダーアプリ「Palu」を使った取組① 6月～



Palu

睡眠不足を解決し、就寝時刻や起床時刻を意識して生活できるように、カレンダーアプリ「Palu」を使用し、起床時刻、就寝時刻を確認した。

確認場面

- ・毎日、朝の時間。

確認方法

- ・○か×のスタンプを押し確認。

[図6]に示すように、○の日が続いた。○の日が続いているにも関わらず、イライラしたり、ウトウトしたりする様子が改善されなかった。保護者の方に尋ねると生徒が○とスタンプを押した日も、実は就寝が遅くってしまっている日があることが分かった。



[図5 チェックをする生徒]



[図6 「Palu」記録画面]

正しく評価をして、より意識づけにつながる手だての再検討が必要だということが分かった。

(2) 起床時刻、就寝時刻の確認の仕方の改善 7月～

起床時刻、就寝時刻を守ることができたか自分で正しく評価し意識化を図るため、取組を見直し、[表1]に示すように、就寝時刻や起床時刻の約束の確認の仕方の改善をした。

まず「早寝早起き」ができたかを、「Palu」を使い1つのカレンダーで確認をしていたが、寝る時刻と起きた時刻を別々に確認することにした。そして、寝る時刻とは、布団に入った時刻でよいことを確認した。また就寝時刻や起床時刻を守ることができたか自己評価する際の基準を生徒が○と思う時刻を基準に、少し細かく分け提示した。約束事項はカードにまとめ（[図7]）、毎日自分で確認するようになった。

[表1 約束チェックの改善]

改善前	生徒の困り感	改善後
早寝早起きをセットで1つのカレンダーで確認していた。	早寝ができてても早起きができなかった。1つできたから○かな？×かな？	就寝時刻と起床時刻のページを分け、それぞれ守れたかチェック。
早寝は、22:30までに寝ること、早起きは6:30までと生徒が決め、約束していた。	寝るって…いつ自分が眠ってしまったか分からないなあ。	寝る時刻は、「ふとんに横になる時刻」でよいことを確認した。
	22:30には間に合わなかったけど、22:40だからまあ○でいいかな？	生徒がOKと思う時刻を基準(◎)に、自己評価する際の基準を少し細かく分け、◎○△で提示した（[図7]）。また自己評価をするときにいつも確認できるように、評価の基準をチェックカードにも示した。



[図7 就寝時刻、起床時刻チェックカード]

就寝時刻と起床時刻を別々に確認するようにしたこと、寝る時刻とは布団に横になった時刻でよいこと、また自己評価の基準を細かく設定したことで、毎日正しく自己評価できるようになった。保護者の方にも協力をしていただき、毎日の就寝、起床の様子を連絡帳で伝えていただいた。保護者の方の評価と、生徒の自己評価は同じ評価で、生徒が正しく評価できていることが確認できた。



Palu

(3) カレンダーアプリ「Palu」を使った取組② 9月～

起床時刻、就寝時刻を正しく評価できるようになってきたので、現在再度「Palu」を使って記録を残している。

確認場面

- ・毎日、朝の時間。

確認方法

- ・◎か○、△で手書きで記録（[図8]）。

「Palu」での生徒の自己評価や保護者の方のコメントから、就寝時刻については確実に定着したとは言えないものの、起床時刻については、○や◎の日が増え、毎日同じ時刻に起きるリズムが整ってきている。また、生徒が就寝時刻や起床時刻を守ろうと意識して生活していることが伝わってくる。さらに、最近では、早く寝ると「イライラしないみたいです。」「すっきり起きることができます。」等の言葉も本人から聞かれるようになってきた。

15	16	17	18	19	20	21
	○	△	◎	◎	◎	◎
22	◎	△	△	◎	◎	◎
29	◎	△	△	A	B	

[図8 「Palu」記録画面]

<実践3>まなぶ・はたらく（学校・職業生活）

③イライラしたときの適切な解決方法を学ぶための取組

7月～

イライラしていても休憩を取れず、なかなか落ち着くことができず、友だちもいる教室で不適切な行動をとってしまうことが多かった生徒。イライラした時だけでなく普段から自分の気持ちに気づき、必要なときには休憩をしたり、活動への参加の仕方を自分で決めたりすることができるように「きもちメーター」を使用した。



(1) 「きもちメーター」活用に向けて準備

iPadで「きもちメーター」を使って、今の自分の気持ちを表現する取組の前に、まず「きもちメーター」の表を使ってカードを作成し（[図9]）、そのカードを使って気持ちを表現するようにした。カードに使う「イライラ」や「モヤモヤ」等の言葉は生徒がよく口にするものを使用した。

イライラ	
すこしイライラ	
リラックス	
モヤモヤ	
かなしい	

[図9 気持ちを表現するカード]

使用場面

- ・1日1回調子のよいときに、今の気持ちを表現することから始め、徐々に2回、3回と回数を増やすようにした。

使用方法

- ・すぐに気持ちを表現できるように、カードは教室の生徒の机の上に貼った。
- ・自分の今の気持ちを指さし（[図10]）や言葉で表現。
- ・教師は生徒が表現した気持ちをアプリに記録。



[図10 気持ちを指さす生徒]

(2) 「きもちメーター」の活用

自分の気持ちの表現に慣れてから、「きもちメーター」を使用した。

使用場面

- ・1日複数回。主に、授業の前後に使用。

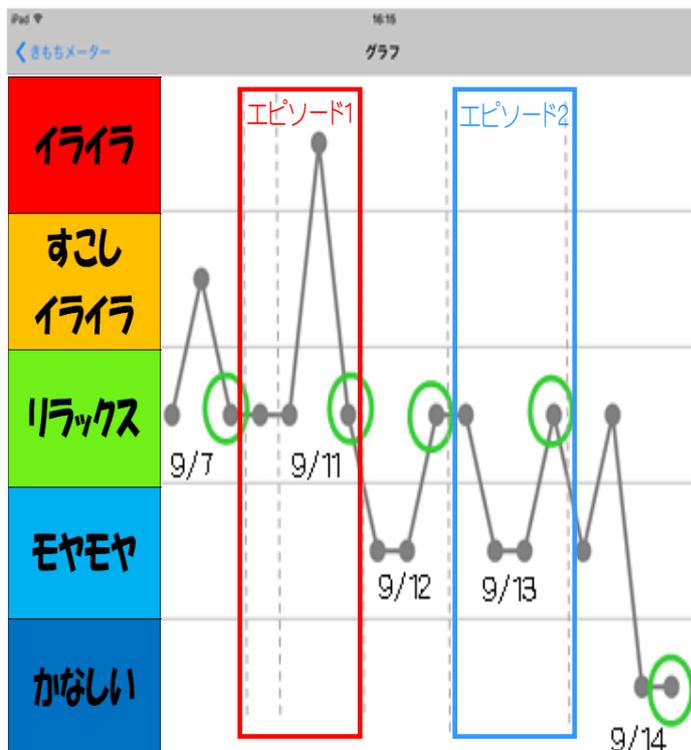
使用方法

- ・タブレットをタップし記録。

〔図11〕は生徒の気持ちの変化を「きもちメーター」を使ってグラフ化したものである。

〔エピソード1〕

9/11。午前中、校外学習に出かけた。現地ではガイドさんが干潟に生息する生き物等の話をしてくださったが少し難しかったこと、そして干潟に入りたいのに今日はいれないことが重なり、最初は「リラックス」で出かけたものの途中から表情が暗くなり、暴言が出始めた。そこで、友だちの輪から少し離れ担任と2人で見学を行った。帰りのバスの中では、事前に用意していたイライラ解消グッズのマスコットを取り出し自分で落ち着こうとしていた（〔図12〕）。学校に戻ると、すぐに自分から「休憩をしてよいですか？」とすることができた。会議室に向かい休憩をした。これまで休憩ができて、気持ちの切り替えに1～2時間かかることも多々あった生徒が、5分間という短時間で気持ちを切り替え次の活動に向かうことができた（〔図13〕）。落ち着いたときに、見学のときの気持ちを尋ねると「イライラ」だったと答えることもできた。この日はその後の活動も笑顔で参加できた。



〔図11 生徒の気持ちの変化のグラフ〕

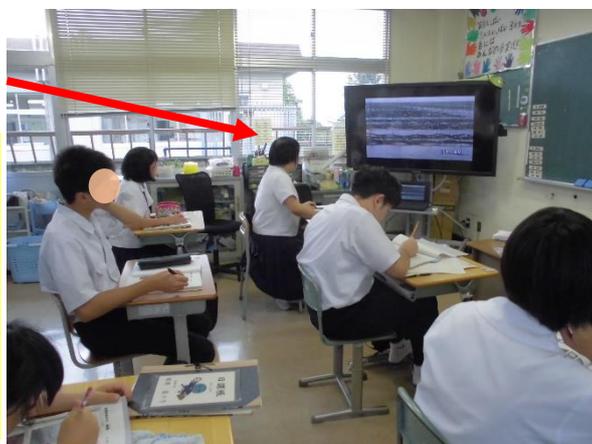
用意していたイライラ解消グッズのマスコットを取り出し自分で落ち着こうとしていた（〔図12〕）。学校に戻ると、すぐに自分から「休憩をしてよいですか？」とすることができた。会議室に向かい休憩をした。これまで休憩ができて、気持ちの切り替えに1～2時間かかることも多々あった生徒が、5分間という短時間で気持ちを切り替え次の活動に向かうことができた（〔図13〕）。落ち着いたときに、見学のときの気持ちを尋ねると「イライラ」だったと答えることもできた。この日はその後の活動も笑顔で参加できた。



〔図12 休憩グッズで落ち着こうとする生徒〕



短時間の休憩後、落ち着いて活動に参加。



〔図13 休憩後落ち着いて活動する生徒〕

〔エピソード2〕

9/13。朝から昼までは「リラックス」で調子もよかった。だが給食前教師が見ていないところで友だちが予備で置いていたお茶を勝手に取って飲んでいて、生徒が見ており、よかれと思って教室に戻ってきた教師に「〇〇くんが、勝手にお茶飲みよんさったよ。」と報告してくれた。しかし、この「勝手に」という言葉がお茶を飲んでしまっていた友だちのNGワードで、その言葉をきっかけにパニックになってしまう。気にしなくてよいことを伝えたものの、自分の言葉で友だちがパニックになってしまったと気にしている様子だった。気持ちを尋ねると「モヤモヤ」と指をさした。イライラではない、何か「モヤモヤ」する気持ちを表現できていた。その後教室で固まってしまっていた生徒。しかし、自分で静かな場所で休憩したいことを伝え休憩

し、リラックスすることができた。

エピソードで示したように、微妙な自分の気持ちに気づき、「イライラ」や「モヤモヤ」等も使い分けて表現することができてきている。この取組を行う前は、イライラしても休憩を取ることができず、友だちのいる教室で不適切な行動をとってしまうことが多々あったが、「イライラ」や「モヤモヤ」等の時には、休憩をした方がよいことを学んだことで、「少しいライラ」になったときに休憩を促すとスムーズに別室に移動する等して休憩できるようになってきた。また自分から「今はイライラしているので休憩してよいですか？」と言うこともできるようになってきており、落ち着いた生活につながってきている。

「きもちメーター」を繰り返し使い、自分のきもちを確認し、その解決方法を学習する中で生徒は少しずつ自分でリラックスするための方法やグッズを発見できている。例えば紙を小さく切る、スライムを触る等（[図14]）。そして、自分で発見したリラックスの方法は、教師とカードにまとめいつも確認できるようにした（[図15]）。



[図14 生徒が発見した落ち着く方法]

さらに、校内でパニックを起こしている友だちを見つけた生徒。「自分で考えたリラックスの方法を友だちにも伝えたい。」と言って、自分のカードを渡しにいたり（[図16]）、「イライラしている友だちのために落ち着くグッズを作ってあげたい。」「作り方を教えてください。」と言って、それまでほとんどやったことのない裁縫の仕事を担任に尋ねマスコット作りに挑戦したりする姿（[図17]）も見られるようになってきた。



[図18 生徒が作ったマスコット]



[図16 友だちに落ちつく方法を書いたカードを渡す生徒]



[図17 友だちに落ちつくためのグッズを作る生徒]

すてきな状況になるために
イライラしたときには、こんなことをやってみるといいよ！！

イライラ → ニコニコ

15のアドバイス
イライラしたときには
みんながとくいぬことを
すべしよ！！

	かみをきる
	パズルをする
	スライムをさわる
	えをかく
	プールであそぶ
	こうさくをする

[図15 生徒が考えた落ち着く方法をまとめたカード]

<実践4>くらす（家庭生活）

②自分ができる家事を担当し、毎日行うための取組

アプリ「まねるんです。」を使って動画で手順書を作り（[図 19・20]）、学校で調理等の家事に取り組んだ（[図 21]）。学校で使用した手順書を持ち帰り、週末や長期休業等に家庭でも取り組んだ（[図 22]）。[図 23]は、生徒が考えた冬休みの目標。家庭で頑張ることとして、毎日取り組んでいる洗濯たたみだけでなく、冬休みは料理も目標に増えた（[図 23 下線部]）。冬休み中、一人で家庭で朝ごはん作りをすることができた。「お兄ちゃんにも作ってあげたいな。」とさらに家族にも作ってあげたい思いも広がってきている。冬休み後も、毎日ではないが朝ごはんづくりに取り組むことができています。さらに、今後新しい料理にも挑戦をする予定。



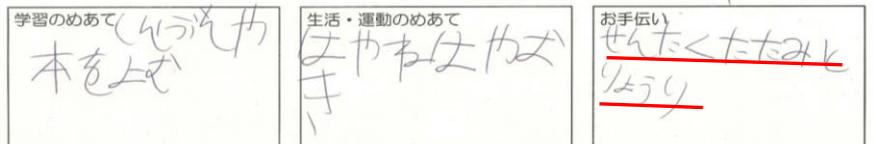
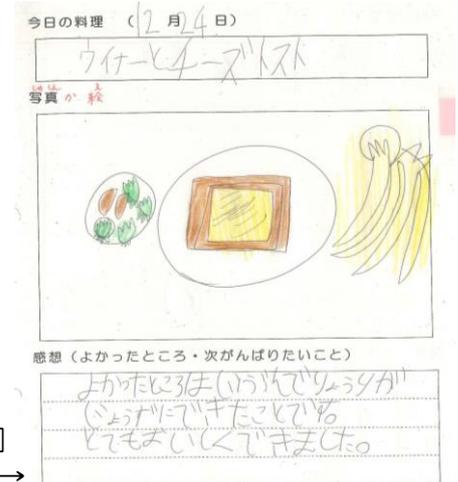
[図19 「まねるんです。」の画面]



[図20 図19の画面をタップ後表示される動画]



[図21 学校で調理に取り組む生徒]
[図22 生徒の冬休みの料理日記]→



[図23 生徒の冬休みの目標]

<実践5>たのしむ（余暇生活）

④余暇を拡充するための取組

授業中や休み時間を使って、生徒の余暇につながる活動と一緒に取り組んだ。[図 24]のように、「You Tube」で何度も聴いた好きな音楽をカラオケで友だちと歌って楽しんだり、分からない字の読みや意味をアプリ「漢字読み方検索」で調べる学習をして図書館を利用し、読みたい本を読んだりすることができた。友だちのためにマスコット作りをしてからは、手芸に興味をもち、休み時間に自分からマスコット作りをする姿もみられた。カラオケに行った後は、「給料をもらってカラオケに行きたいな。」と言っていた。将来の余暇につながる活動に興味をもち、取り組むことができています。



[図24 余暇につながる活動]

⑤自分の思いを伝えコミュニケーションの幅を広げるための取組



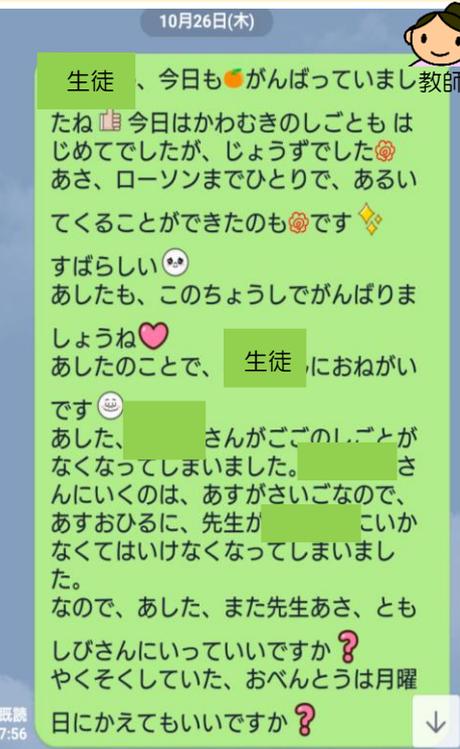
「LINE」を使ったやりとりも行った。普段学校で感想等尋ねると、毎回「〇〇が楽しかったです。」等の一言で終わっていた生徒だが、メールではとても表現豊かに、自分の思いを伝えることができた。夏休み後半には、朝食を作ったことや、実習でもらった給料でピーズを買ったこと等、生徒の思いが詰まったメールが届いた（[図 25]）。生徒とやりとりする中で、メールで伝えたことを、よく理解できていることが分かったので、生徒の頑張っていることを毎日伝えるようにしたり、予定の変更でイライラしてしまわないように事前にメールで変更点を伝えるようにしたり（[図 26]）、余暇につながる活動に興味をもてるように教師の休日の過ごし方を伝えたりと<実践2>から<実践6>につながるやりとりも積極的に行うようにした。学校以外の実習先でも、急な変更にもイライラせず、落ち着いて仕事に取り組んだり、冬休み中テレビが終わったらすぐに布団に入ることを宣言したりすることもできた（[図 28 下線部]）。最近では写真や動画も使って分かりやすく自分の思いを伝えようとしている。

落ち着いて生活できるようになったことで、「LINE」等を使ってやりとりができるようになり、今までなかなか表現できなかった、頑張っていること、挑戦したいこと、困っていること等の生徒の思いをたくさん共有できるようになった。共有できたことで、さらに新たな取組も増え、できることが増えてきている。

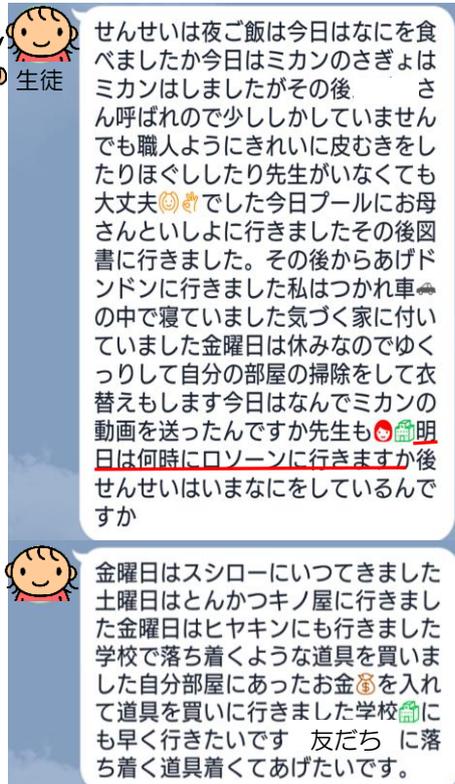
↓実習中、生徒の頑張っていることをメールでも伝えた。予定の変更も、事前に丁寧に伝えることで落ち着いて過ごすことができていた。

↓実習中、頑張ったことを自分から伝えた。不安なこと（[図27]）下線部）は事前に教師に尋ね解決した。

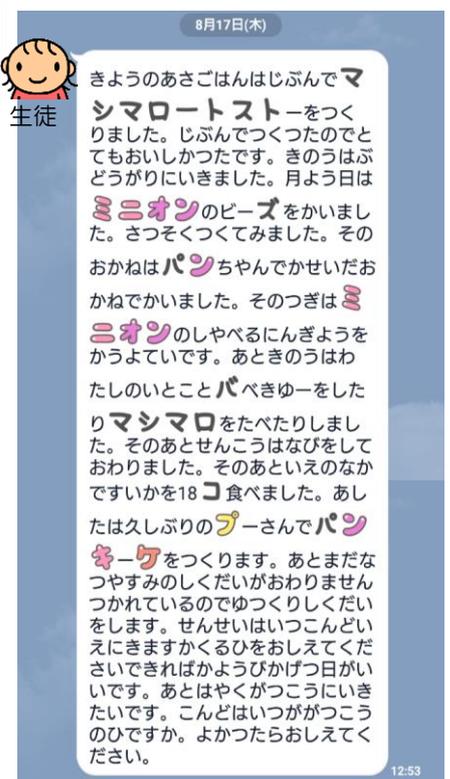
↓冬休み中も早めに布団に入ることを報告。自分で早寝も意識できるようになってきている。



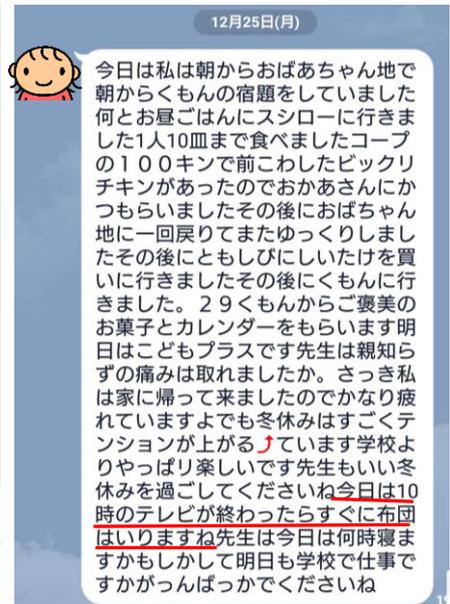
[図26 実習中の教師からのメール]



[図27 実習中の生徒からのメール]



[図25 夏休み中のLINE]



[図28 冬休み中のメール]

自分の思いを文や写真、動画を使って表現することができるようになってきている。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

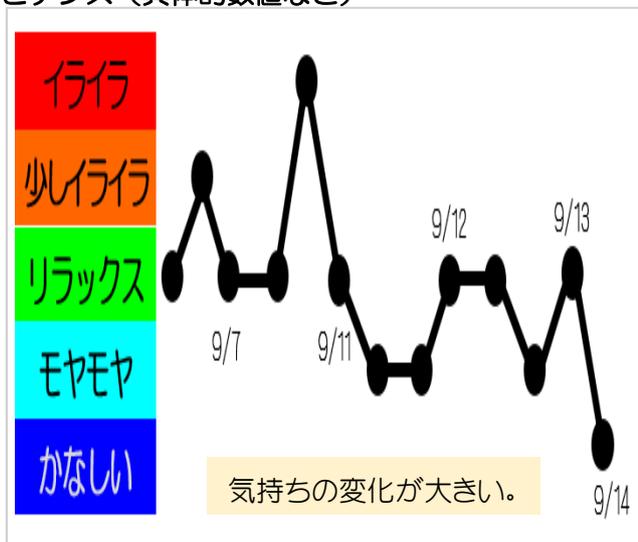
・気持ちを表現する場面を繰り返し設定することで、一日のうちで気持ちは変化すること、気持ちが落ち着かないときには休憩をするとよいことを生徒が学習し、落ち着いて日々の生活を送ることができるようになってきたと考えている。

・落ち着いて生活できるようになったことで、いろいろな学習に参加し、新たにできるようになったことが増えた。また、学習の中で気付いたことや考えたこと、自分の思いを様々な場面で表現できるようになった。

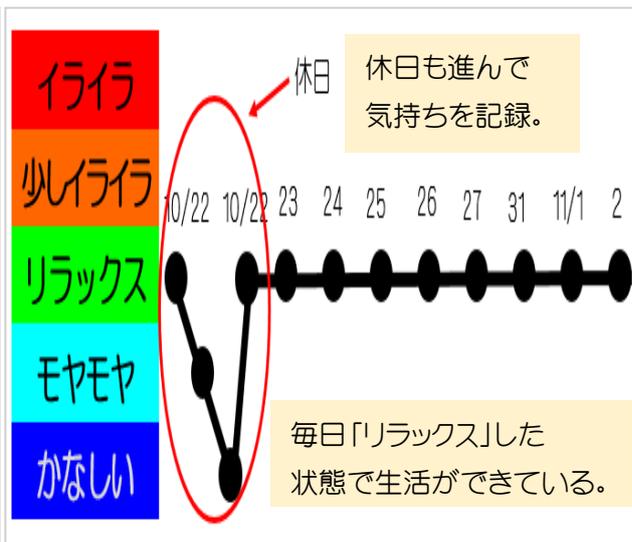
・起床時刻や就寝時刻が、次の日の活動に影響を及ぼすことに気づき、起床時刻や就寝時刻を意識して生活しようとするようになってきた。

➡イライラしたときの適切な解決方法を学び落ち着いて日々の生活を送る姿、自分の思いを伝えコミュニケーションをとる姿、起床時刻、就寝時刻を意識して生活する姿は、年度当初この実践でねらった生徒の姿である。この姿を見取ることができたことで、将来の「はたらく生活」の実現につながる実践になったと考える。

○エビデンス（具体的数値など）



【図29 9月の生徒の気持ちの変化記録】



【図30 10・11月の生徒の気持ちの変化記録】

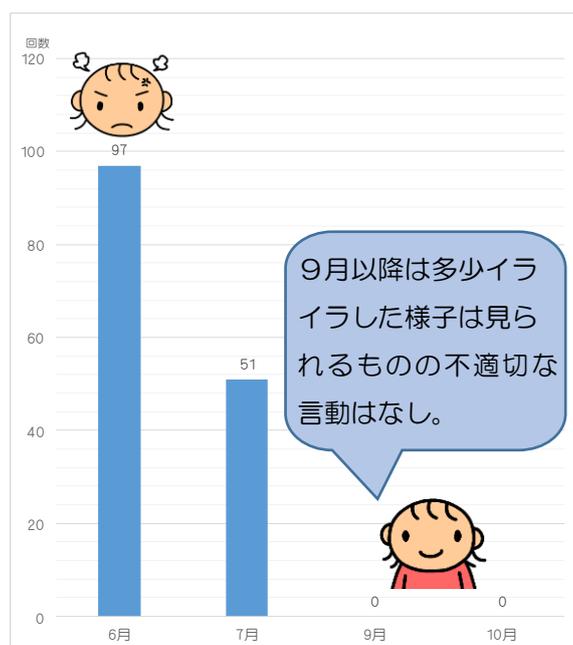
・気持ちの変化を示したグラフを見ると、9月は気持ちの変化が大きかった生徒が（[図 29]）、10・11月には、落ち着いて活動できている様子が分かる（[図 30]）。

・[図 31]を見ても、取組当初は朝の会や帰りの会でイライラし、不適切な言動が発生する回数が多かった生徒が、各実践に取り組むことで、不適切な言動が減り、落ち着いて活動できるようになったことが分かる。9月以降は朝の会や帰りの会で不適切な言動は見られていない。落ち着いて活動できるようになったことが、生徒の変容につながった。

○今後の見通し

・卒業後の「はたらく生活」を想定し、現在の取組の中で継続して取り組んでいくもの、今後は取組の必要のないもの、新たに取り組む必要があるもの等の検討を卒業までに再度行う。

・卒業後生徒が使用するアプリについては、生徒が家庭で使用しているタブレット端末でも使用できるようにする。



【図31 朝の会や帰りの会での不適切な言動の発生回数】